



品質は語る……

白松がモナカ本舗



上生菓子で季節のまつり

さくら餡のどら焼



塩漬けた桜の花びらを薄紅色にいろづけた白餡に入れてやさしくカステラで仕上げました。

「春」を感じるどら焼。

1個 118円



八幡神社からの貸切電車（昭和48年頃）

※直営店にてご利用をお待ち申し上げます。表示価格は消費税込みです。

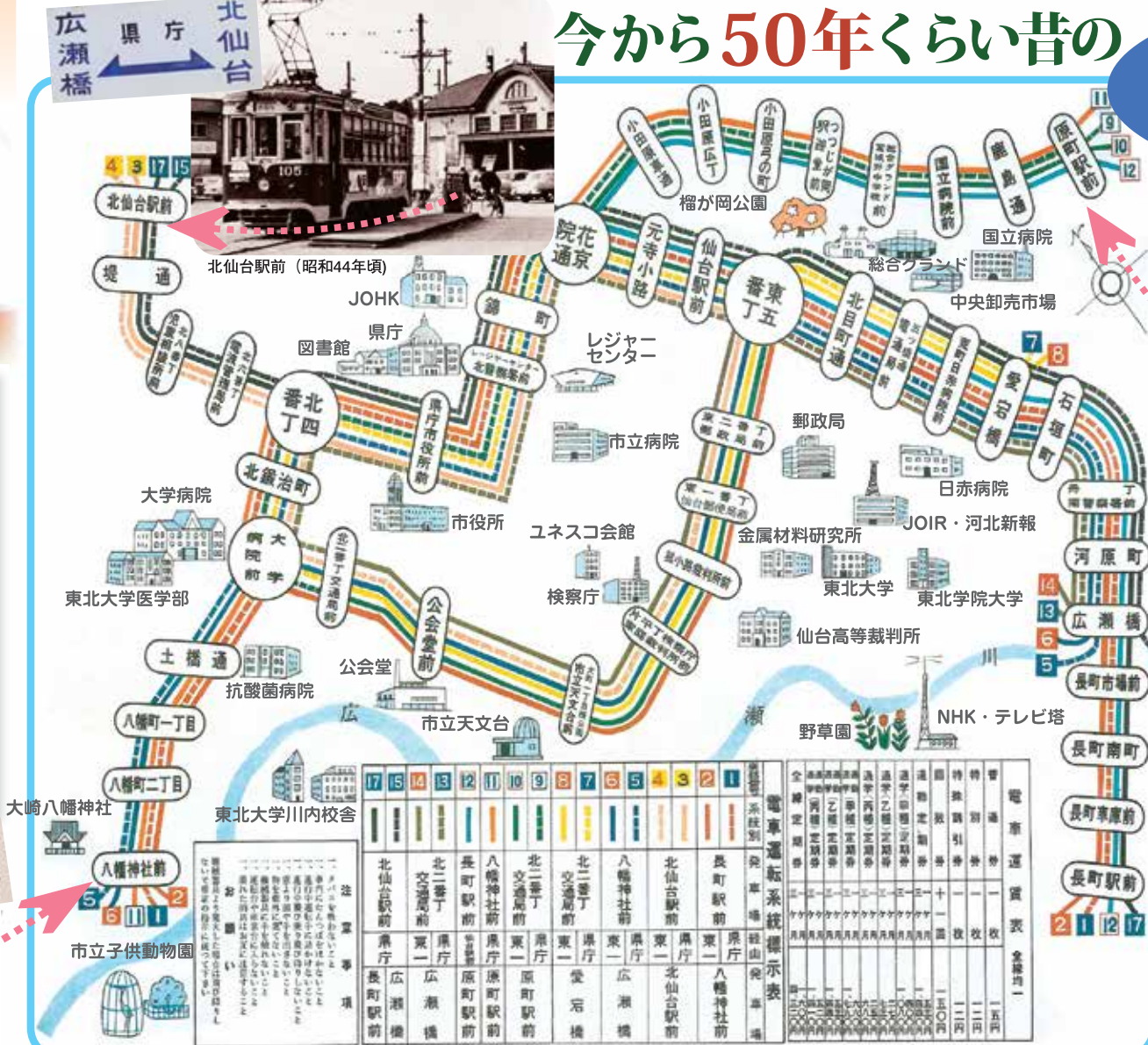
参考資料「仙台市電—その50年—」（仙台市交通局発行）
取材協力「仙章堂」 庄子喜隆さん
資料提供「仙章堂」

北仙台
県庁
広瀬橋

今から50年くらい昔の

市電運転系統図

昭和37年6月現在
仙台市交通局



昭和20年代後半から昭和30年代にかけて、仙台市電は黄金期を迎えます。ここに挙げたのは昭和37年の「市電運転系統図」、簡単にいうと路線図です。



原の町停留所（昭和51年頃）



荒町日赤病院前停留所（昭和50年頃）

なつかしの仙台の市電

昭和30年代、縦横に市内を走ってた。系統別に彩られた左の図はとてもカラフルで綺麗です。大正15（1926）年の開業時には仙台駅前から大町1丁目までの「南廻り線」と、仙台駅前から荒町までの「清水小路線」の2路線だけでしたが、昭和3（1928）年には市の中心部を走る「循環線」が誕生します。昭和11（1936）年には長町線、昭和12年には北仙台線、昭和16年には八幡町線が

開通。戦後の昭和23（1948）年には、原の町線が開通しました。反面、昭和3年開通の芭蕉の辻線は昭和19年、北仙台線も昭和44年に廃止されています。さて、昭和37（1962）年当時の路線図（市電運転系統図）を見ると、JR長町駅、JR原町駅、JR北仙台駅、大崎八幡神社前を主な起・終点として、17経路も走っていました。左の系統図の1番の経路をみてみましょう。JR長町駅前を起点に中心部へ向かう路線です。長町市場前を進んで広瀬橋、愛宕橋を渡り、仙台駅前を通過して県庁市役所前へと向かい、そこからさらに東北大学病院方面に進み、終点の八幡神社前まで。JR原町駅を起点にした9番は、原の町から花京院を通り、中心部をぐるりと廻り、原の町に戻る循環線です。運行経路がわかると、通勤、通学、買物、病院通いなど、一日中、幅広い市民が乗り降りした様子が目に浮かびますね。懐かしい思い出を持つ方も少なくないことでしょう。ですが、この頃から高度成長期に入りクルマが増え始め、やがて市電は主役の座を明け渡すこととなるのでした。